

### 第3回 小郡市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録(要旨抜粋)

日 時：令和7年2月14日(金)午後3時00分～午後4時00分

会 場：小郡市役所 本館3階大会議室

出席者：委員 宮本 明子、片根 暢宏、森光 孝将、小川 絵美、三宅 淳司

中島 佳奈美、大久保 誠子、山下 永子、大久保 誠子

大中 久俊(座長)

(欠席：安丸 一宏、山下 舞桜、谷 彩花)

事務局 坂本経営戦略課長、丸山移住・定住担当企画主査、

山本政策推進係長、佐々木行政実務研修員

議 題 (1)人口ビジョン(案)について

(2)デジタル田園都市国家構想総合戦略(案)について

---

#### 開 会

#### 議題(1) 人口ビジョン(案)について

※事務局から、人口ビジョン(案)の策定内容について説明

(山下委員) 現時点の外国人人口に対する対策はしているのか。

(事務局) 当市の外国人人口の傾向として、毎年社会増減が見られる。外国人を支援組織と担当課で密に連携が取れており、今まで必要に応じて新しい事業を取り組んできた。引き続き、その体制をとっていきたい。

(三宅委員) 出生率について人口に占める20代30代あたりの方々が多いと出生率が高くなるという傾向にあるのか？

(事務局) 出生率は15歳から49歳までの女性が一生の間に産むとした子どもの数を表すもの。必ずしも母数が多いからといって、出生率が高くなるわけではない。例えば東京を見ていただくとわかるように、対象となる女性の人数は多いが、出生率は低い。出生率の要因としては、婚姻率や住みやすさなどが影響としているものとする。

(座 長) 他に意見が無ければ、人口ビジョン(案)はこれを最終取りまとめてよろしいか。

#### 議題(2) 新しい地方創生総合戦略(案)について

※事務局から、新しい地方創生総合戦略(案)について説明

(山下委員) 1(3)「農業」の強化について現在、小郡市で認定農業者はどれぐらい

いるのか。

(事務局) 小郡市の農業者数が約人口の1%であり、市全体で農業者は約600人いる。その中で認定農業者は127社である。(令和5年4月末時点)

(山下委員) 3(3)子ども一人一人にきめ細やかな教育について、生徒さんへの調査は既に毎年実施しているものがあるのか。また調査はどのように実施するのか。

(事務局) 学校で生徒にアンケートを実施しており、令和6年度調査分より項目が新設されている。

(山下委員) 学校教員の負担減として、教育以外の業務を削減していることもある為、教育委員会とはしっかりと連携を取ってほしい。

(小川委員) 3(2)子育てしやすい環境の整備について、実際に出ている待機児童数が個人的に少ないと感じた。本当は申し込みたくても、制限や環境面の不安が理由で申し込んでいない人たちが数字には反映されないのだと思う。そういった環境をもう少し改善していくことは必要になってくるのではないか。

(事務局) 学童施設での児童の生活環境や業務内容も含め、担当課とも協議し、検討を進めていきたい。

#### その他(1) 今後のスケジュールについて

(事務局) 今回審議いただいた総合戦略について、2月25日から3月16日までパブリックコメントを行う。そこで出た意見については、内容を確認後、委員へ情報共有を行う。また、人口ビジョンも合わせて3月末に策定予定で進めていきたい。

#### その他(2) 全体的なご意見

(山下委員) 小郡市の総合戦略はバランスが良すぎると感じる。他自治体では、ブランディングとしての方向性を定め、一体的に進める原動力となるようなものがないと、外部に想いが伝わりにくい。

(事務局) 市の魅力を総合的に底上げしていくことが、小郡市を選んでもらう、住んでいる方がずっと住み続けたいと思えるように考えている。今後いろ

んな動きがあると思うので、見直しを行っていくなかで、どう反映するべきかをこの有識者会議で協議していきたいと考える。

(三宅委員) 創業者数の目標値は、非常に高い目標である。小郡市ももっと一步踏み込んで研修会や支援をしていただくと、より市が引っ張っていくっていうイメージが出るのではないかと思う。

(事務局) 本日の意見を担当課へ共有し、協議・検討を進めていきたい。

閉会